



地域教育から考える持続可能な地域 ～シビックプライド醸成による空洞化の解決～



龍谷大学今里ゼミナール7期生



宇川小学校6年生との総合学習

(今里ゼミ撮影)



**地域教育によってシビックプライドを醸成し、
地域課題を解決できる可能性**

日本の農山村地域における課題

- ▷ 農村政策の第一人者である小田切徳美氏（2009）によると、
農山村では**3つの空洞化**が進行している

人の空洞化

人口構成の高齢化が進み、
過疎化が進んでいること



土地の空洞化

休耕田が増加し、
使われていない土地が
増えること



むらの空洞化

集落機能が
著しく後退すること



深層に

「誇りの空洞化」

(=地域住民がそこに住む意味や誇りを見失うこと)

が存在している

誇りの空洞化

▷ 地域住民がそこに住む意味や誇りを見失うこと



ここで生まれた
子どもがかわいそうだ。



今の若い子は
こんなところには住まない。
都会に出るのが当たり前だ。

住民が、自分が住む地域を誇れない状態が
地域全体に広がっていること

宇川の課題

(今里ゼミ撮影)

人の空洞化



土地の空洞化



むらの空洞化



22回の現地調査、80人以上のヒアリング調査などから

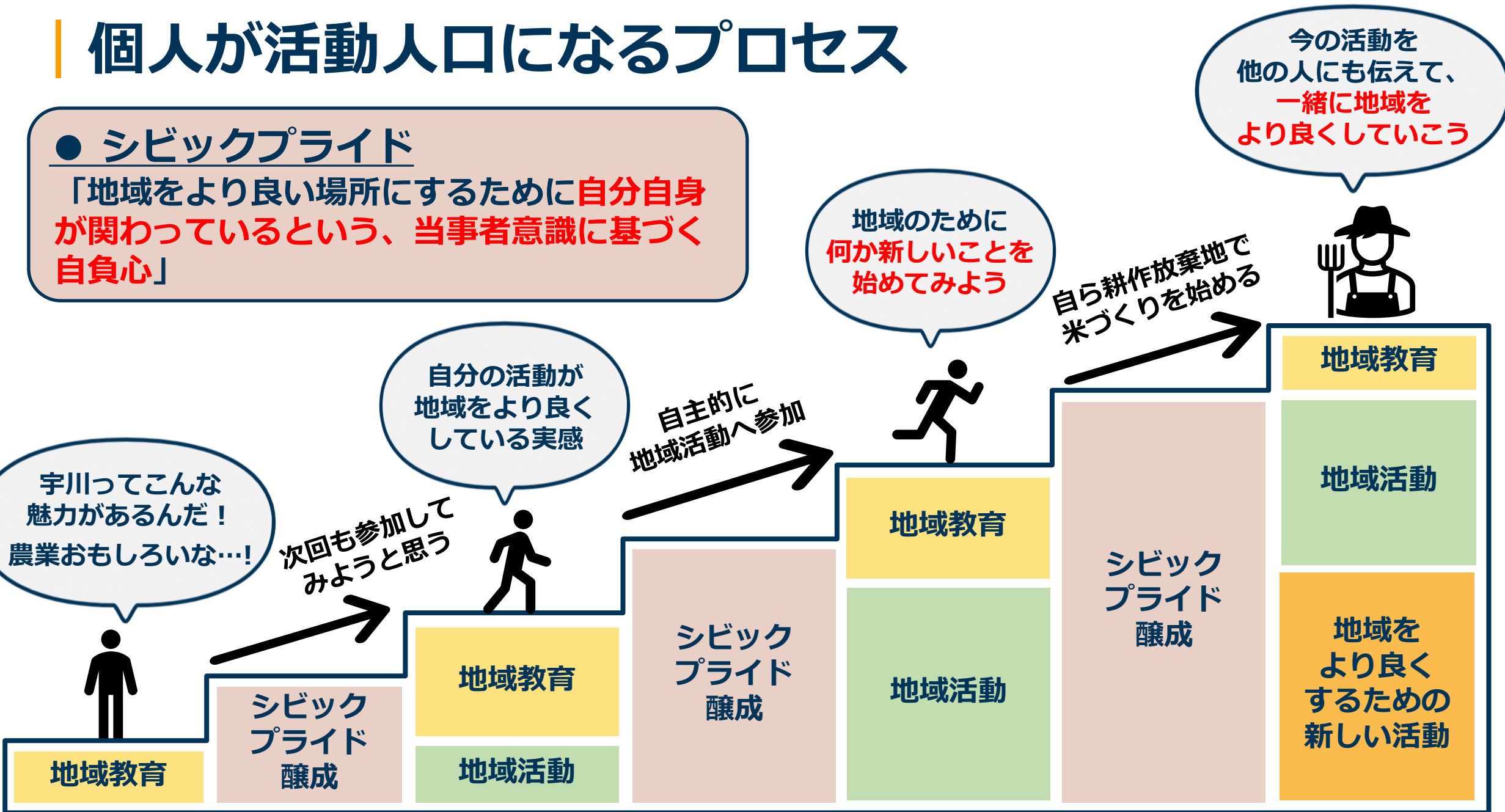
地域を誇れない「誇りの空洞化」

が進行していることが分かった

個人が活動人口になるプロセス

● シビックプライド

「地域をより良い場所にするために自分自身が関わっているという、当事者意識に基づく自負心」



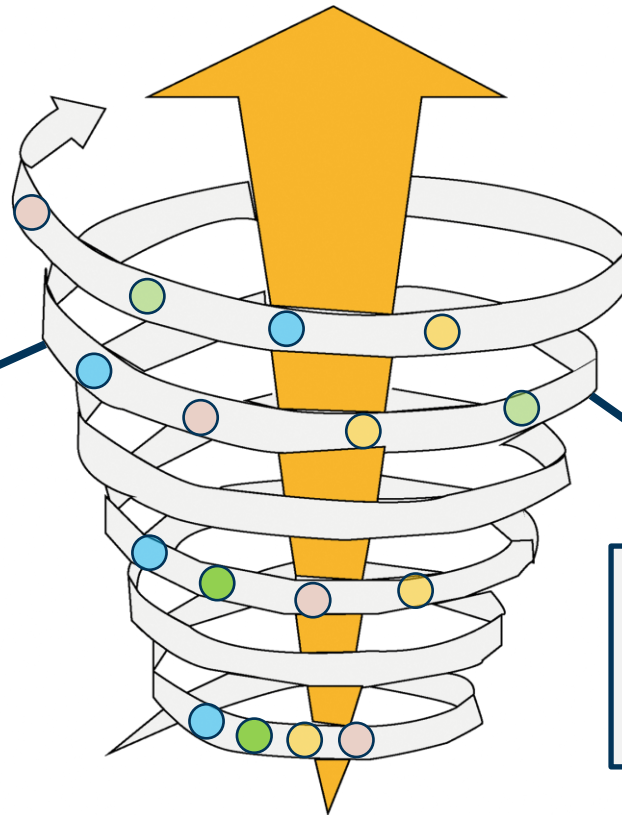
持続可能な宇川地区を実現するプロセス

宇川地区

持続可能な地域

地域全体で、
シビックプライドが
高い人がだんだん
多くなっている
ことを示す渦

地域全体として、
地域への誇りが
高まる



人の
空洞化

土地の
空洞化

むらの
空洞化

誇りの
空洞化

→ シビックプライド醸成による
活動人口の増加に伴い、
徐々に4つの空洞化が
解決されていく

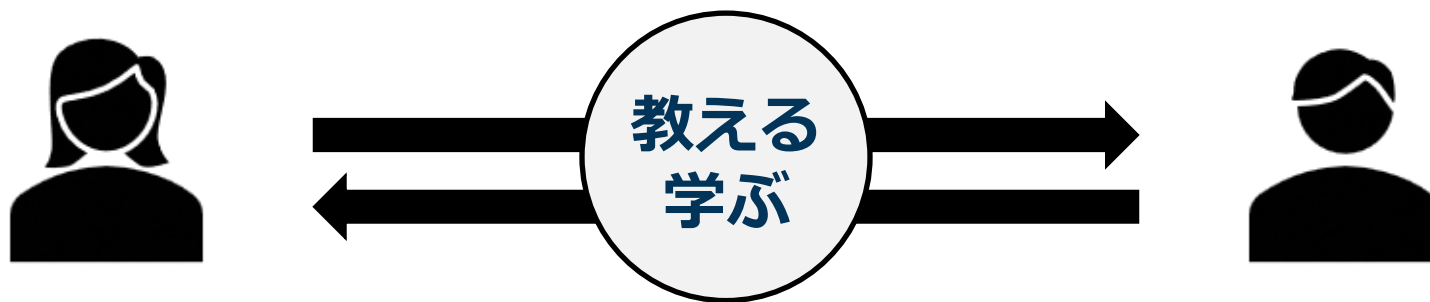
地域教育を手段として
シビックプライドの醸成する

活動人口が増加し、4つの空洞化は徐々に解決され、
持続可能な宇川へ

地域教育の定義

今里ゼミは「教えることは学ぶこと」と捉え、
「地域教育」を「地域に根差した教育」つまり、
「地域という場で地域に関わり、学び、考え、教えること」と定義する。
また、座学に加え、実際に地域に飛び出して
地域住民と直接かかわり、実践することに重点を置き、
子どもだけでなく、大人も地域教育の対象に含む。

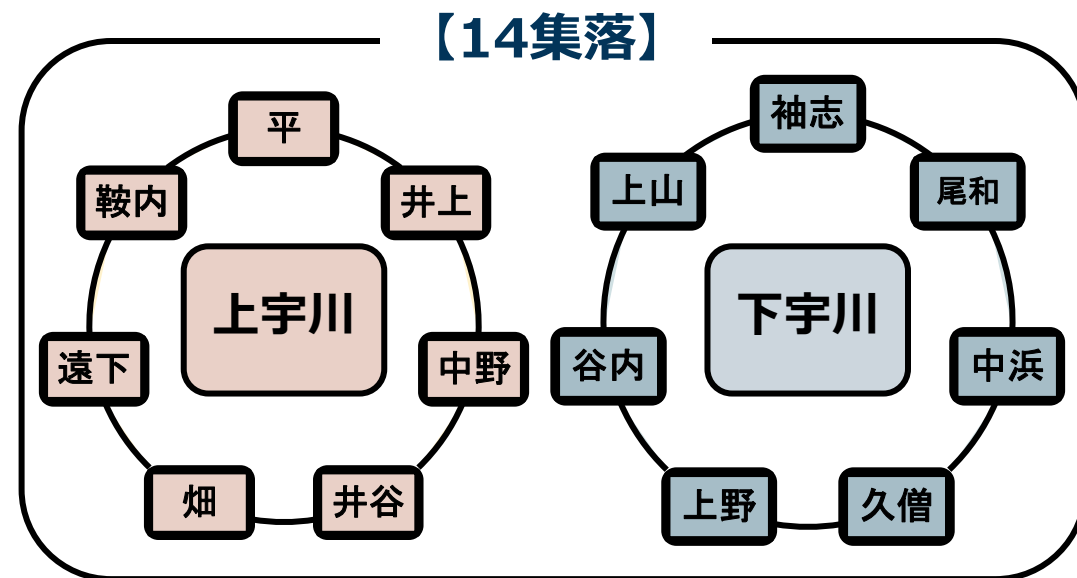
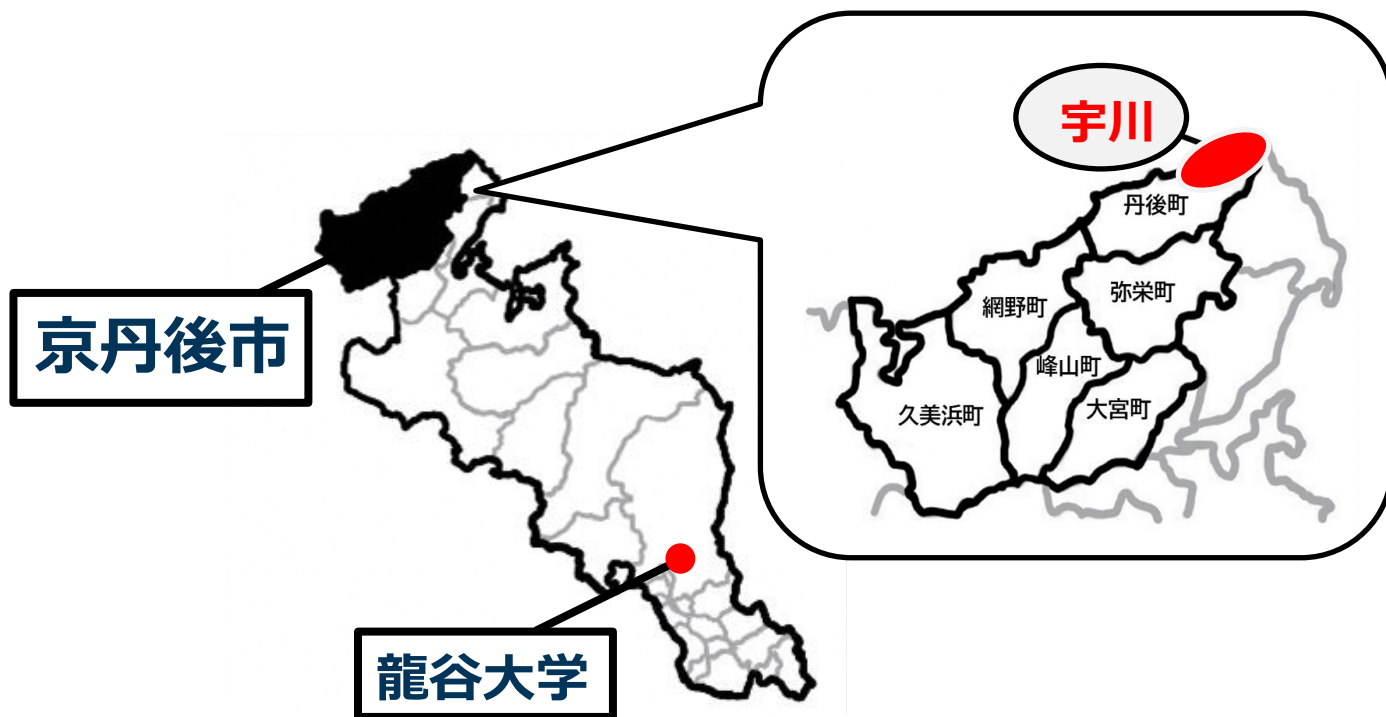
(参考：岩崎、高野2010, 高野2013)



関わる全ての人が教え、学び合える場

宇川の概要

研究拠点【京都府京丹後市丹後町 宇川地区】の基本情報



- 人口：1,099人
- 高齢化率：48.5%

- ・ 上宇川・下宇川の14集落から成る
 - ・ 14集落のうち高齢化率が50%以上の集落が8集落
- ▷ 地域としてあり続けることが困難になっている

宇川小学校（全校生徒44人）：地域唯一の小学校 ▷ 統廃合問題の渦中にある

宇川地区の魅力

平



井上



中野



井谷



畑



遠下



鞍内



袖志



尾和



中浜



久僧



上野



谷内



上山



(今里ゼミ撮影)

多くの課題がある一方で、14集落それぞれに多様な魅力がある

今里ゼミの活動目的

- ▷ 宇川地区に入って今年で8年目
- ▷ **地域課題の解決に実践的な活動でアプローチ**
- ▷ **地域の人と信頼関係を築きながら共に活動を行い、成果を出してきた**

**持続可能な地域社会のあり方を
自治・協働の観点から考える**



経ヶ岬灯台の杖づくり



竹灯籠作りイベント
(わくわく教室)



ジビエカレー缶・梅ジャムの開発



(今里ゼミ撮影)

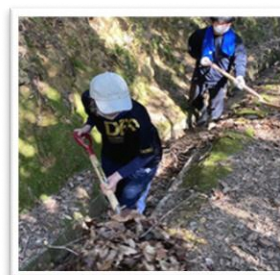


パンフレットの作成

今里ゼミ



今里田での米づくり



水路の泥上げ

今里田PJ

宇川の食材を使った商品開発

- ▷ ジビエカレー缶・宇川の梅ジャムの商品開発

自然・交流 PJ

宇川の自然資源を活用し、 地域内外の交流を促進

- ▷ わくわく教室の実施・経ヶ岬灯台のベンチ作成

情報発信PJ

宇川情報を地域内外に発信

- ▷ 宇川マップづくり・SNSでの情報発信

宇川アクティブライフハウス (宇川ハウス)

- ▷ 宇川地区の活動拠点
- ▷ 今里ゼミの活動拠点



(今里ゼミ撮影)

宇川ハウスで行われている主な活動



ランチバイキング



各種会議・公民館活動



わくわく教室

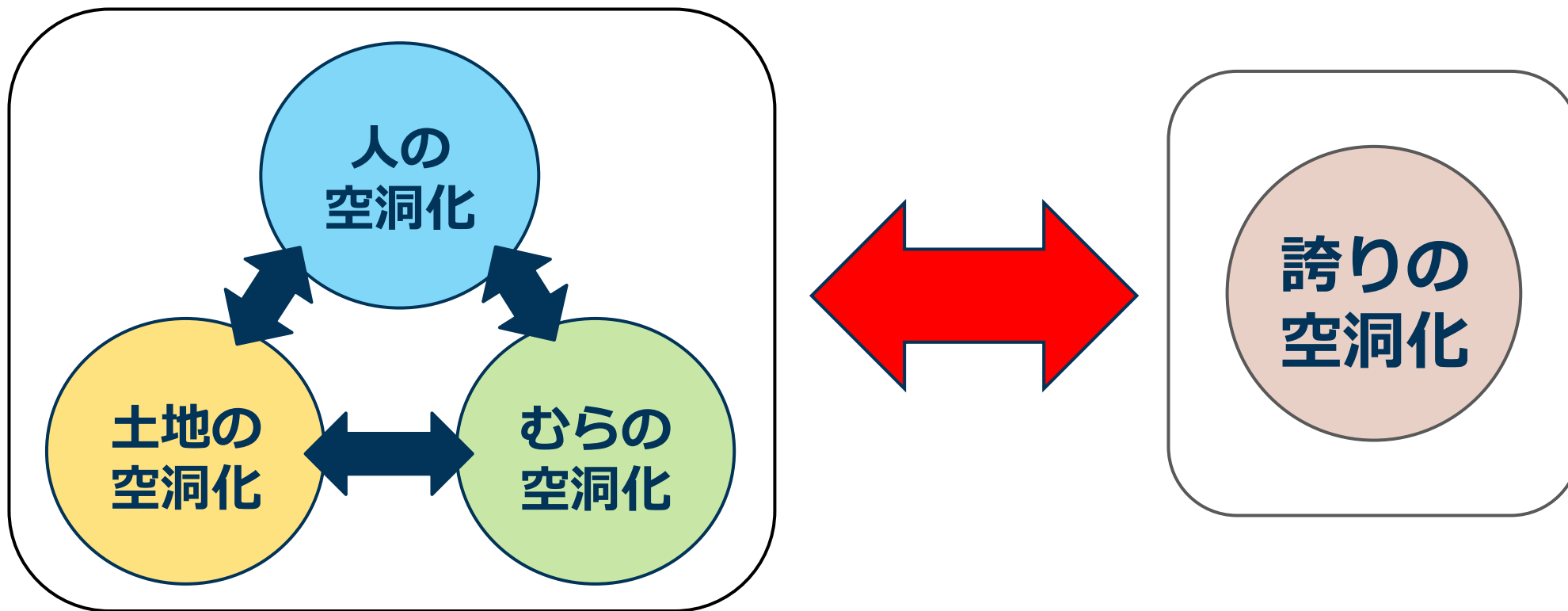


金曜市 (買い物支援)

問題の所在

農山村の4つの空洞化

- ▷ 人、土地、むらの3つの空洞化に加え、それぞれの空洞化の深層には「誇りの空洞化」が存在する



影響し合い、4つの空洞化はより深刻化している

研究方法

1 現地実態調査

2 参与観察

3 アンケート調査

4 ヒアリング調査

① 現地実態調査詳細

金曜市	・計7回の参画 ・運営の補助や利用者との交流
ワーク ショップ	・計2回の参画 ・宇川の将来について考える ・今の宇川地区の強みや改善点を話し合う



(今里ゼミ撮影)

② 参与観察詳細

宇川小学校 総合学習	・対面で7回、オンライン上で4回の授業を実施 ・7月に2回のフィールドワークを実施
わくわく 教室	・対面で6回、オンライン上で3回実施 ・対面時には自然資源を活用した体験活動を企画

③ アンケート調査詳細

	金曜市 アンケート	わくわく アンケート	区長 アンケート	6年生 アンケート
目的	子どもとの関わり、 地域活動状況等の 把握	わくわく教室の 参加実態の把握	集落機能維持に 関する実態の把握	総合学習の感想・ 効果
調査期間	2022/9/23	2022/9/23	2022/10/14～ 10/20	2022/10/27
調査対象	金曜市利用者	わくわく教室利用者	宇川地区の各区長	宇川小学校6年生
調査方法	今里ゼミ生による アンケート形式	今里ゼミ生による インタビュー形式	各区長に郵送で配布 し、郵送もしくは 1016WS時に回収	紙媒体で、6年生 担任から小学生に 配布と回収
回収状況	金曜市利用者50名	わくわく教室 参加者20名	配布数：14部 回収数：12部	配布数：7部 回収数：7部

4

ヒアリング調査

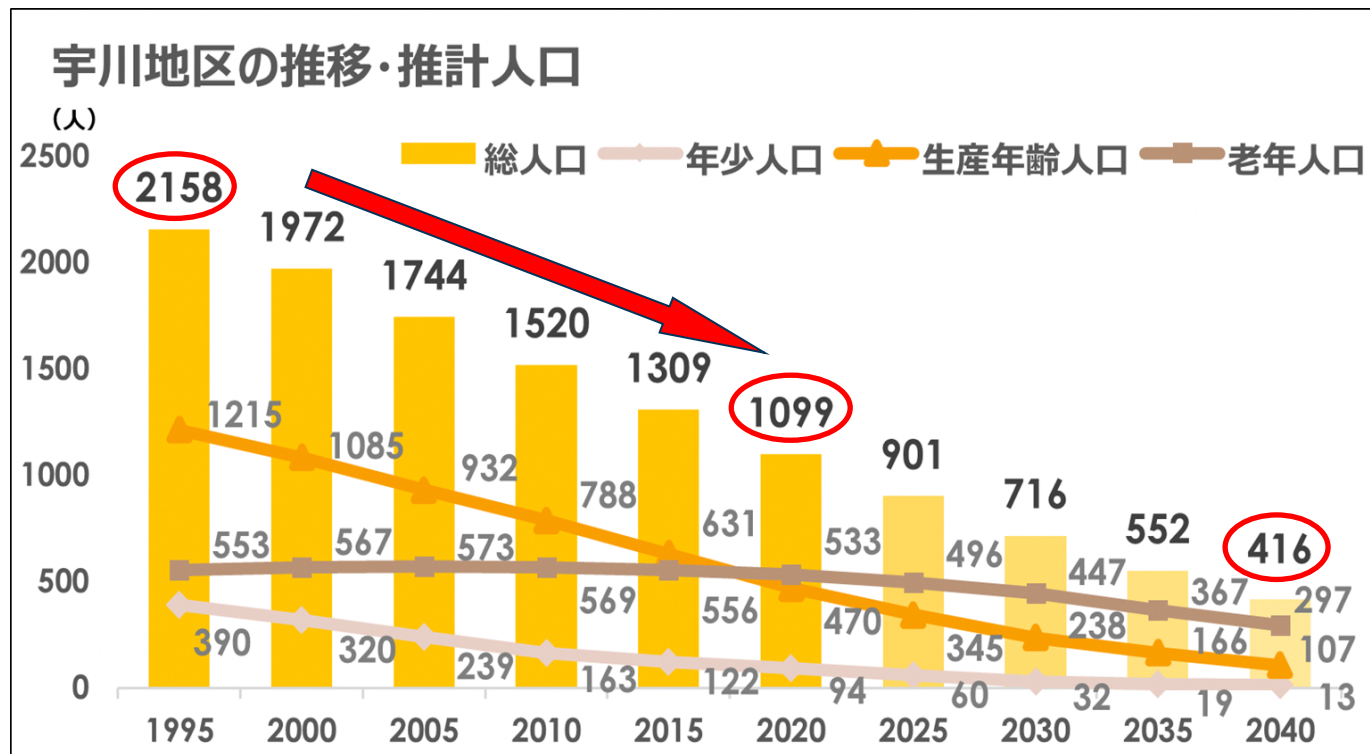
▶ 宇川住民や行政関係者等へ、現地及びオンラインで実施

- ◆青木滉人氏（京丹後市市役所職員）
- ◆池田暁美氏（宇川観光案内所、金曜市運営スタッフ）
- ◆井上浩次氏（上山区長）
- ◆井上りさ氏（宇川加工所メンバー、移住者）
- ◆岩本剛氏（（株）氷川のぎろっちよ事務局長）
- ◆大木史帆氏（宇川加工所メンバー、元地域おこし協力隊）
- ◆奥口陽登氏（金曜市運営スタッフ、林業従事者、元地域おこし協力隊）
- ◆小倉伸氏（元宇川スマート定住協議会会長、上宇川連合区長会会長）
- ◆小倉麗子氏（宇川加工所メンバー、金曜市惣菜担当、ささえ合い交通スタッフ）
- ◆小谷将貴氏（経ヶ岬灯台保存会 副会長）
- ◆川淵一清氏（社会福祉法人みねやま福祉会、まちの人事企画室）
- ◆木村ますみ氏（中野集落（区）住民）
- ◆小林文博氏（金曜市責任者、宇川ハウス運営委員会、事務局長）
- ◆小森政博氏（社会福祉法人みねやま福祉会、まちの人事企画室、移住者）
- ◆酒井満雄氏（宇川連携協議会会長）
- ◆坂戸清氏（中浜集落（区）住民）
- ◆坂戸節子氏（宇川加工所メンバー、ささえ合い交通スタッフ）
- ◆前川典代氏（宇川加工所メンバー、移住者）
- ◆増田幸夫氏（遠下区長）
- ◆塩谷正敏氏（久僧集落（区）住民）
- ◆島田晃佑氏（京丹後市地域コミュニティ推進課）
- ◆関奈央弥氏（元地域おこし協力隊、丹後バル代表）
- ◆辻大地氏（京都府農林水産部農村振興課主査）
- ◆戸根嘉郎氏（久僧区長、染色業、今里田提供者兼管理者）
- ◆前川典代氏（宇川加工所メンバー、移住者）
- ◆松下幸広氏（京丹後市農村整備課長）
- ◆三井雄太氏（京丹後市役所市長公室政策企画課移住・定住推進係）
- ◆三宅久美子氏（遠下集落（区）住民）
- ◆山口圭一氏（袖志区長）
- ◆山口寛氏（津屋崎ランチLLP代表）
- ◆山口洋子氏（宇川加工所代表、ささえ合い交通スタッフ、キッチン高嶋代表）
- ◆山下ゆき氏（移住者）
- ◆山中勇史氏（移住者、猟師）
- ◆吉井照美氏（久僧集落（区）住民）
- ◆その他多くの宇川地区住民

80名以上にヒアリング

人の空洞化

▷ 人口構成の高齢化が進み、過疎化が進んでいること



「国勢調査」をもとに今里ゼミ作成

25年間で総人口は
約半数に減少

このまま進むと宇川の人口は

2020年

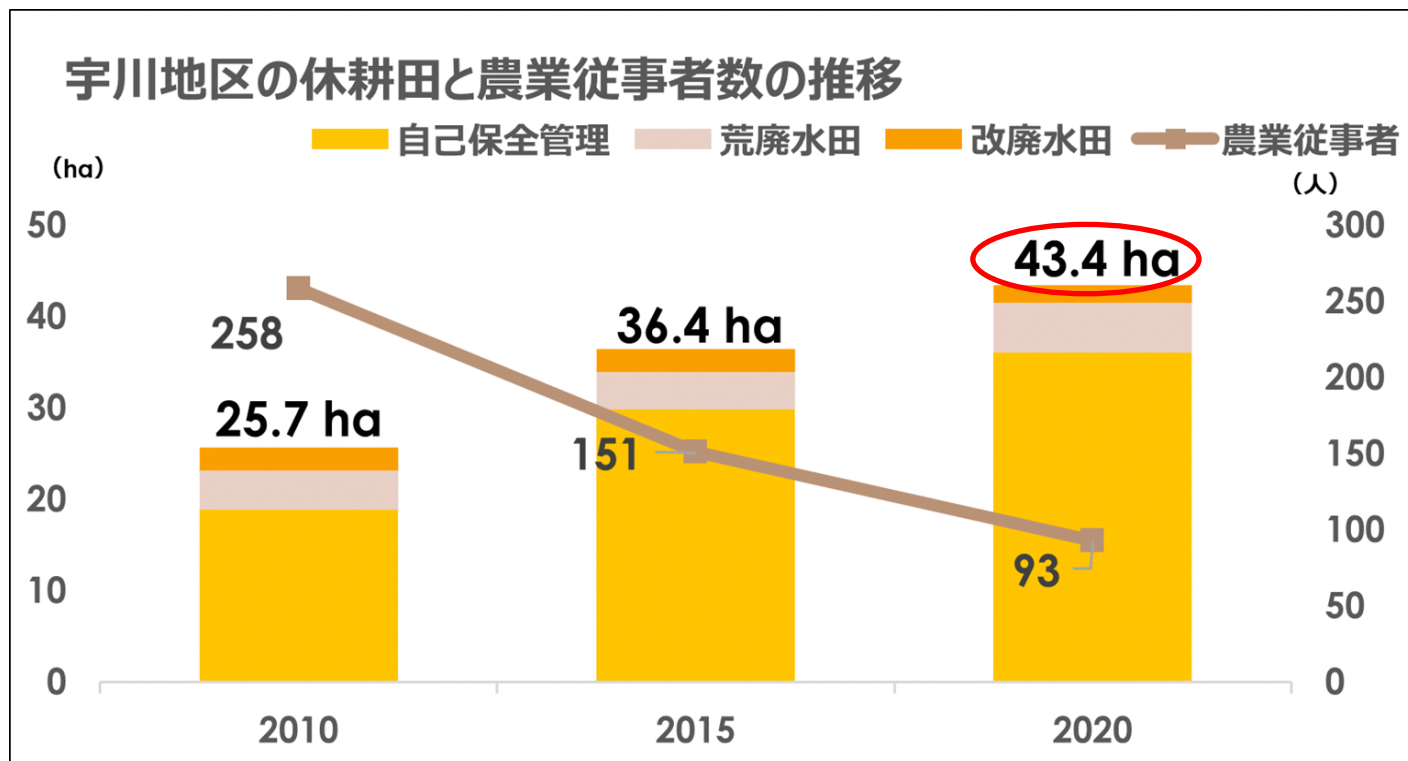
2040年

1099人 ➡ **416人**

人口の急激な減少が進んでいる

土地の空洞化

▷ 休耕田が増加し、使われていない土地が増えること



「京丹後市提供資料」「農業センサス」をもとに今里ゼミ作成

10年間で農業従事者は
165人減少

2020年の休耕田は
43.4ha

宇川全耕地面積の
約33%が休耕田

農業従事者の減少、休耕田の増加

むらの空洞化

▷ 集落機能が著しく後退すること

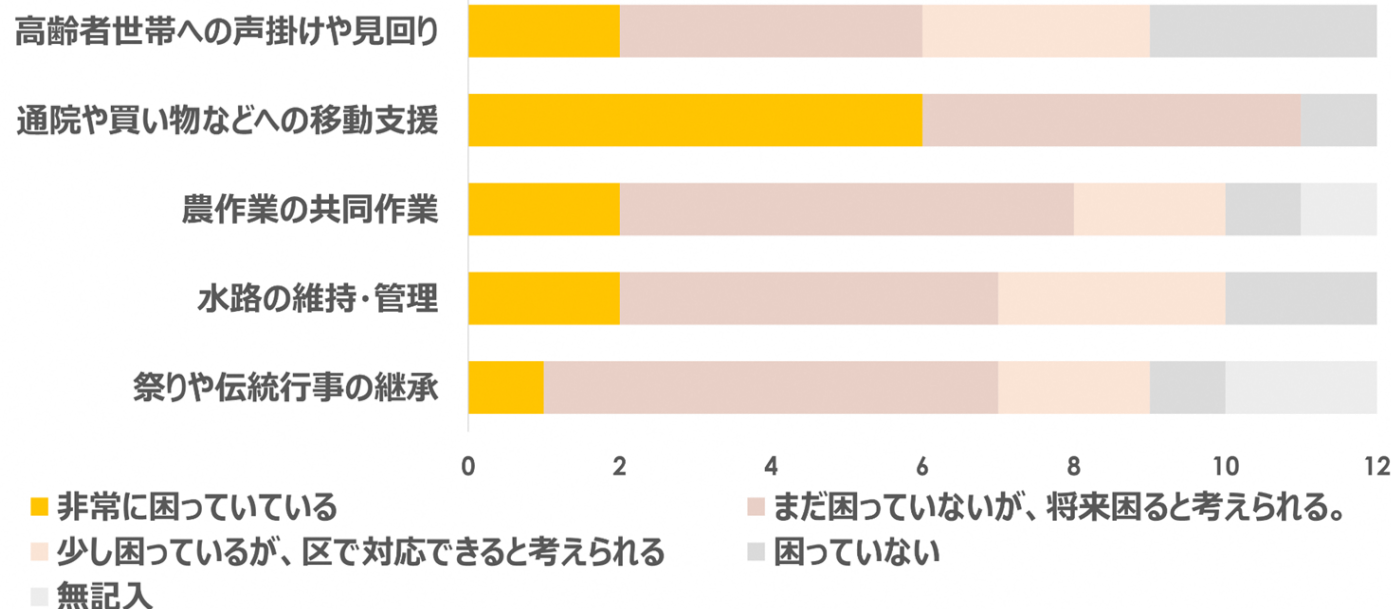
区長アンケート

目的：集落機能維持に関する実態の把握

対象：各集落（区）の区長

回収状況：配布数14部 回収数12部

集落機能の低下（区長アンケート抜粋）



今里ゼミが独自に行った「区長アンケート」をもとに今里ゼミ作成

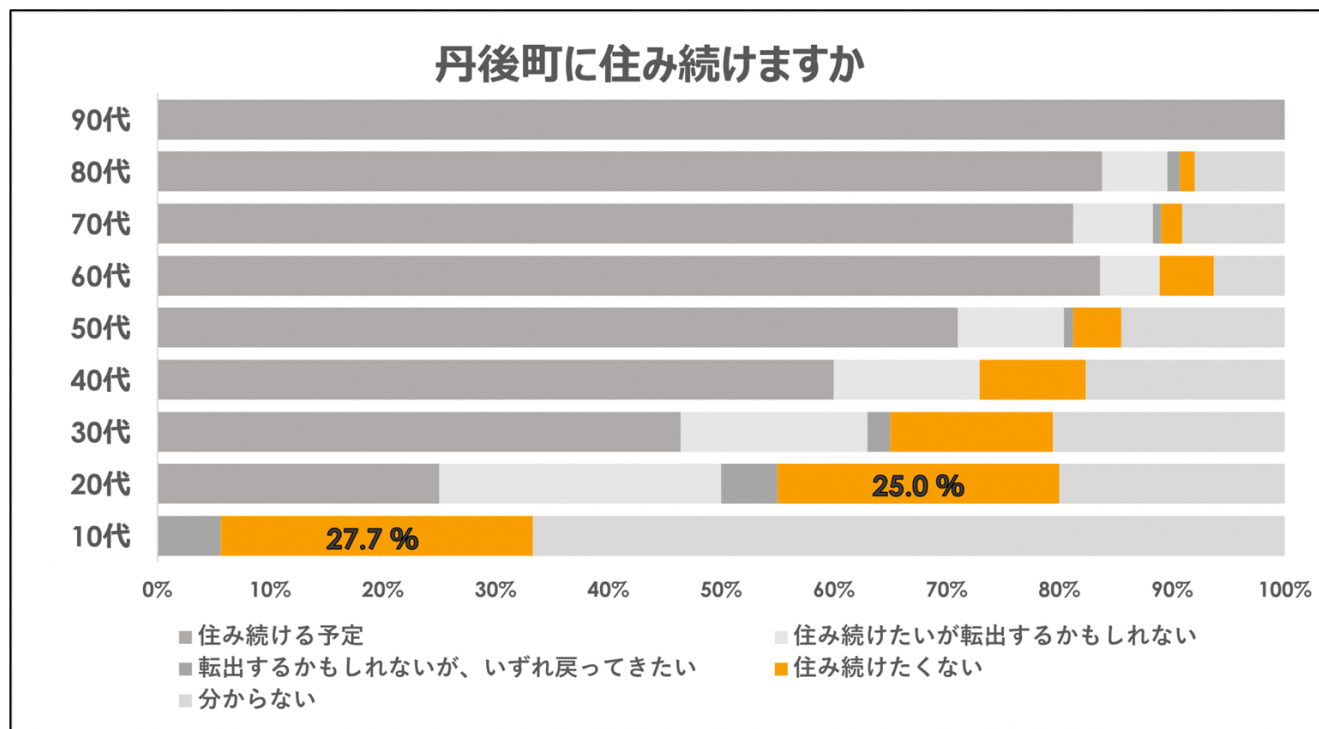
集落機能について
困っていると回答した区は
約8割

担い手不足により
**袖志の棚田保存会が
活動休止に**

集落機能が低下している

誇りの空洞化

▷ 地域住民がそこに住む意味や誇りを見失うこと



「丹後町中学生以上全員まちづくりアンケート調査結果・宇川版」をもとに今里ゼミ作成

10代で
「住み続ける予定」と回答した人

0%

10代、20代で
「住み続けたくない」と回答した人

約 3 割

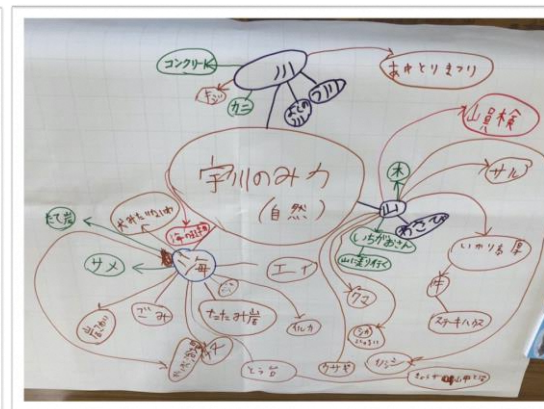
特に若年層の定住意欲が低い

誇りの空洞化

▷ 地域住民がそこに住む意味や誇りを見失うこと

○ 総合学習 宇川小学校6年生とのマインドマップづくり

- ・ 宇川の魅力を見つけるためにマインドマップづくりを行ったが、積極的に宇川の魅力をあげた児童はいなかった。「わからない」「課題ならある」という声が聞かれた。
- ・ 総合学習当初、**魅力を具体的にあげた児童は誰もいなかった。**大学生の外からの視点によって「それが宇川の魅力なんだ」と気づいた。



(今里ゼミ撮影)

若者世代が宇川地区に魅力を感じていない

誇りの空洞化

▷ 地域住民がそこに住む意味や誇りを見失うこと

定住意識が高い**中高年層**から**地域を誇れない発言**が聞かれた

【誇りの空洞化を表す発言】



【ワークショップ】

- 「息子に外へ行けってというのが本音」
- 「**子どもに胸を張って帰ってこいとは言えない**」
- 「大人はみんな（宇川の）外へ出て行けって言う」

いずれも
40代～70代の発言

【ヒアリング調査】

- 「よくこんなところに移住してくるなって感じる」
- 「宇川はいい所だと、なかなか言えない」
- 「子どもから『**宇川に未来はない**』という発言を聞いた」



地域に対する負の感情が伝染

良い兆し

放課後わくわく教室

子どもの教育と遊びを目的として
週1で行われている地域活動

▷ **学びの場の創出**



田園回帰の流れ

5年間で**84人**の移住者



宇川アグリ株式会社

農業者同士がお金を出し合い機械を
購入するなど、組織全体で**ほ場整備**
された農地を活用する ▷ **農業促進**



ささえ合い交通

Uberアプリを用いて、住民ボラン
ティアがドライバーとなる、タクシ
ーのような**移動手段**



金曜市

毎週金曜日に、**6次産業化**を行う
宇川加工所で作った惣菜を販売
▷ **貴重な買い物場所**



農村RMO

中山間地域において、様々な
集落機能を補完する組織



(今里ゼミ撮影)

宇川地区には、活発に活動する住民もいる！
良い兆しは、持続可能な宇川地区を実現するかぎを握っている

一部の住民に
負担が偏っている

協力してくれるたくさんの宇川住民に出会うことができた

地域教育の可能性



総合学習



わくわく教室
(今里ゼミ撮影)

シビックプライドの定義

▷ 地域に対する住民の誇り

- 生まれ故郷でなくても、関わりを持つ地域に対して愛着や誇りを持つこと
- 「地域をより良い場所にするために自分自身が関わっているという、当事者意識に基づく自負心」



自分自身が関わって、
地域をより良くしようとする気持ち

シビックプライドの4因子

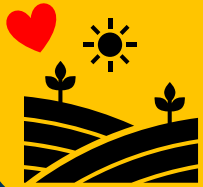
愛着	住みたい気持ち、地域を好きな気持ち
持続願望	地域環境の持続を望み、大切に思う気持ち
参画	自ら地域をより良くしようとする気持ち
地域アイデンティティ	「地域という場」をどう捉えるか、自分にとってどのような存在か、どのような意識を持つのかという、地域への認知に基づく地域の自己確定

(「伊藤2017、2019」「渡部2021」をもとに今里ゼミ作成)

地域教育



シビックプライド
醸成



4つの空洞化解決



総合学習、わくわく教室での
気づき
+
先行研究

参与観察

〈総合学習の企画・運営〉



(今里ゼミ撮影)



【宇川小学校6年生の総合学習の授業概要】

テーマ：宇川について考える

ねらい：→ 宇川地区ならではの魅力を考え、地域住民の思いや地域の発展のためにはどのような努力が必要かを知り、**自分に何ができるかを考えること**

→ 地域との関わり方を見つめ直し、さらに**宇川に対する愛着を持たせること**

児童数：8名（児童1人1人の興味、関心に添って学習を進める）

【今里ゼミの取り組み】

- 授業計画書の作成
- 授業ワークシート、宿題ワークシートの作成
- 児童への学習アドバイス
- 2回のフィールドワーク（FW）の企画**

- ▷ 学校と地域住民の双方と連絡を取り、日程調整や事前に打ち合わせを行う「**コーディネーター**」としての役割
- ▷ 6年生1人1人の学習テーマに合ったFW先を探し、その場所に詳しい宇川住民を探し出した

8ヶ所10名の
協力を得る
ことができた

宇川小学校6年生との総合学習の授業内容

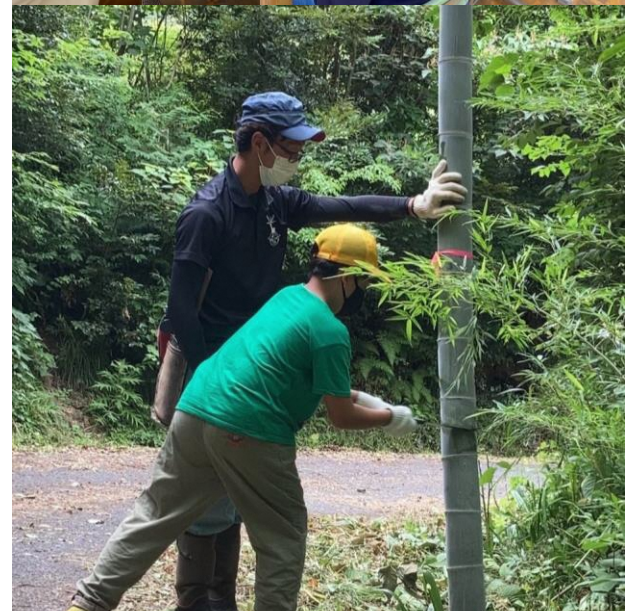
	日付	授業内容
発表 する	第1回 4/22 (対面)	▶自己紹介 ▶大学、ゼミ紹介 ▶レクリエーション ▶「食べ物班」と「自然班」に分かれてマインドマップ作成 (宇川の魅力を書き出す)
	第2回 5/13 (Zoom)	▶児童によるワークシート①（大学生が児童別に作成）と 調べたことの発表 ▶大学生と児童2人1組に分かれ、地域資源についての調査
調べる・ 深める	第3回 5/27 (対面)	▶児童によるワークシート②の発表 ▶食べ物班：たけのこ、ぶどう、お米、鮎について調べる ▶自然班：山、海、依遅ヶ尾山について深掘り
	第4回 6/10 (Zoom)	▶児童によるワークシート③（深掘り）の発表 ▶大学生からFWスケジュールについての報告、質問項目 を考える
	第5回 7/1 (対面)	▶第1回 FW実施 →石川氏（上野区（集落）の高嶋コテージ）/戸根氏（久僧 区（集落）の山、今里田）/三宅氏（遠下区（集落）の依遅 ヶ尾山）/坂戸氏（中浜区（集落）の漁港）にヒアリング
	第6回 7/8 (対面)	▶第2回 FW実施 →酒井氏（平区（集落）のぶどう園、川）/小倉氏（井上区 （集落）の山）にヒアリング
	第7回 7/11 (Zoom)	▶FWの振り返り作文発表 ▶夏休み課題の説明（FWで分かったことを含め、模造紙に まとめる）
まとめる	第8回 9/9 (Zoom)	▶夏休み課題の発表 ▶大学生から児童に学習発表会へ向けてアドバイス
	第9回 9/15 (対面)	▶学習発表用原稿の作成
表現する	第10回 10/28 (対面)	▶発表のリハーサル ▶大学生から児童に発表の仕方についてアドバイス
	学習 発表会 11/5 (対面)	▶調べたこと、考えたこと、宇川地区への思い等をまとめ、 学習発表会で発表

総合学習 参画を通して得た気づき

【子どもたちの行動・体験・経験からの今里ゼミ生の気づき】

- 「お米」について学び、祖父母が行う稲刈り、農作業を手伝った
⇒ **学びの自分事化**ができた。
- 五感を使う体験学習（例：竹の伐採）
⇒ **座学だけでは得られない知識の習得**ができた。
- フィールドワークの感想が多く聞かれた
⇒ 新たな交流の中での楽しい学びが**良い思い出**となった。

シビックプライドの醸成がうかがえる



(今里ゼミ撮影)

総合学習 参画を通して得た気づき

【子どもたちの心情変化（学習発表会での発表内容より）】



- 宇川の魅力である鮎が、これからもずっと宇川にいてほしいと思った。
- これからも中浜漁港が海の生き物にとっても、地域の人にとっても素敵なところであってほしいと思った。
- 何十年先も、宇川の海がきれいであるために、ゴミ問題など身近なところから取り組みたいと思った。



(今里ゼミ撮影)

児童のシビックプライド醸成がうかがえた

総合学習 宇川住民（大人）の行動からの気づき

【フィールドワーク（FW）における**住民の協力**】

第1回FW（第5回授業 7/1）	第2回FW（第6回授業 7/8）
▶石川氏が講義資料、サーフボードやカヤック等のボードの準備 ▶戸根氏が事前に山の下見 ▶三宅氏が依遅神社の管理者を招致 ▶坂戸氏が地元の漁師を招致	▶酒井氏、他2名による鮎取り用網の準備とその実演 ▶小倉氏が竹炭を事前準備 ▶奥口氏（小倉氏が招致）が、子どもたちに竹の伐採を体験してもらうために工具の準備

- 学びを深めるために資料や実演器具の用意、現地の下見等、さまざまな工夫や準備 ▶ **積極的な協力**
- 子どもたちへ地域について教えながら案内をする「**案内人役**」を快諾
- **住民同士のつながり**から、地域について詳しい**知り合いの方**を紹介していただいた
- 総合学習における「**地域学習**」の取り組みに対する**称賛の声**、今里ゼミへの**称賛の声**



宇川住民（大人）の**積極的・協力的な姿勢**がみられた

（今里ゼミ撮影）

参与観察

〈わくわく教室の企画・運営〉

【わくわく教室の概要】

▷ 宇川地区の放課後教室

目的：子どもたちの「教育」と「遊び」

対象：宇川地区の小学生

活動日：水曜日、休日（不定期）、祝日（不定期）

活動場所：宇川ハウス、オンラインなど

【今里ゼミの取り組み】

目的：自然資源を活用した新しい交流、地域の交流の場の創出

目標：地域を考えるきっかけづくり

対象：主に小学生

活動日：第4水曜日、休日（不定期）、祝日（金曜日）

活動場所：宇川ハウス、オンラインなど

活動内容：イベントの企画・運営



（今里ゼミ撮影）



これまでのわくわく教室での活動内容（今里ゼミ7期生）

日付	参加人数	形式	内容
2021/6/30（水）	17人	オンライン	ジェスチャーゲーム
2021/7/23（金・祝）	18人	対面	宝探しゲーム
2021/7/25（日）	6人	対面・川	生き物調査
2021/10/13（水）	11人	オンライン	クイズゲーム
2021/11/7（日）	15人	対面	竹灯籠づくり
2022/4/29（金・祝）	18人	対面	室内レク
2022/5/14（土）	6人	対面・今里田	田植え
2022/6/2（水）	27人	オンライン	間違い探し
2022/9/23（金・祝）	28人	対面	海ゴミを活用したストラップづくり
2022/11/30（水）	6人	オンライン	宇川の川の生き物クイズ

社会性形成

異学年交流

多世代交流

の役割 ➡ 子どもにとって地域と向き合うきっかけとなっている

わくわく教室 参画を通して得た気づきと考察

【子どもたちの反応からの今里ゼミ生の気づきと考察】

- 多くの子どもから、「楽しかった」との声が聞かれた



- 生き物調査、海ごみ工作等の体験
⇒ 楽しく地域について学ぶことができた
- オンライン上での交流
⇒ 普段と違う環境に対する楽しさがあつた



- ⇒ わくわく教室は子どもたちにとって地域資源となる
- ⇒ 「**地域での楽しい思い出**」として記憶に残ることで、**地域への愛着が芽生える可能性**
- ⇒ 成長してから**地域を見つめ、考えるきっかけ**になる可能性

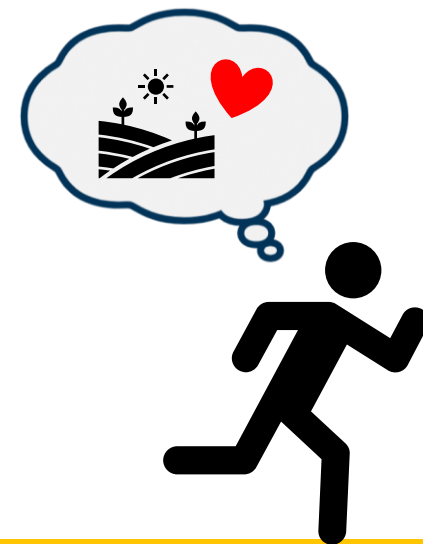
シビックプライドの醸成を期待できる



(今里ゼミ撮影)

先行研究

- ・ 地域の子ども・大人を巻き込んだ対話による地域教育により、**自分の住んでいる地域に愛着を持った人が多い**（山口氏談）
- ・ 1年間の地域学習を通して児童の地域ビジョンや捉え方が具体的になり、**シビックプライドは醸成される**（井形、田中2019）
- ・ 多世代参加型の地域課題解決ワークショップを行った結果、**参加者のシビックプライドは醸成されてきた**（田中2021）
- ・ 『人に何かを教えてあげられる自分を自覚するほど、**自信と誇りを取り戻す**機会はありません。』（藤山2015）



多くの先行研究によると**地域教育**によって
シビックプライドを高めることができる
と示されている

先行研究

- 地域愛着が地域での協力行動に与える影響について分析（鈴木・藤井2008）

➔ 愛着が高い人ほど町内会活動やまちづくり活動等の
地域活動に熱心である傾向がみられた



① 熊本県氷川町 「子ども記者クラブ」

- ▷ 子どもたちが地域の課題解決活動に参加



当時地域の課題解決活動に参加した子どもたちが、
地域で耕作放棄地を解決する
株式会社を設立



（ソトコトHPより引用）

② 福岡県津屋崎町 「トーク・フォークダンス」

- ▷ 子どもと大人の対話を通じた参加型地域学習を実施



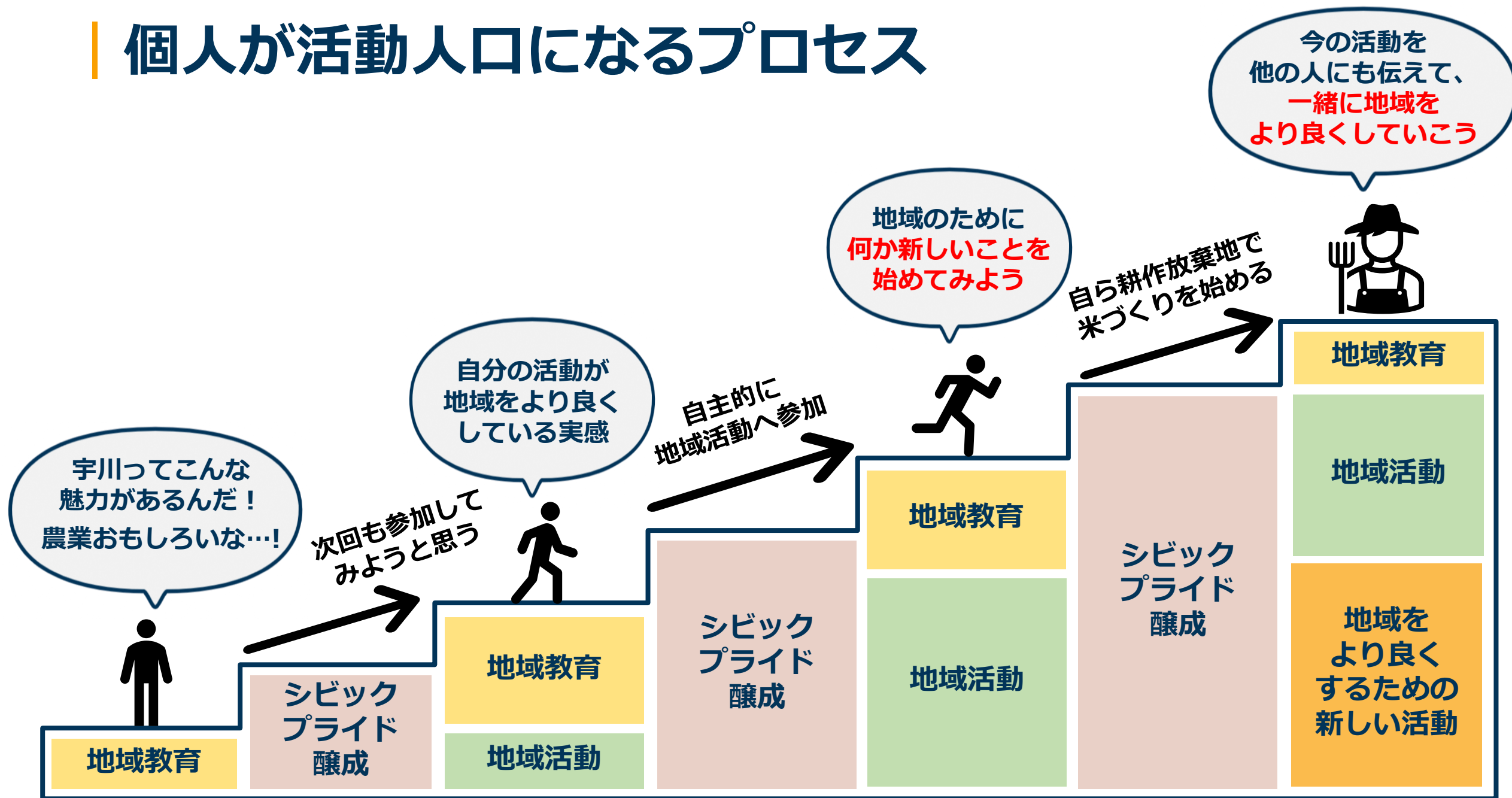
当時参加型地域学習に参加したOBが
地域での話し合いの重要性に気づき
地域全体で話し合いの場を作る
「創造のたまご」を設立



（山口氏Facebookより引用）

政策提案に向けて

個人が活動人口になるプロセス



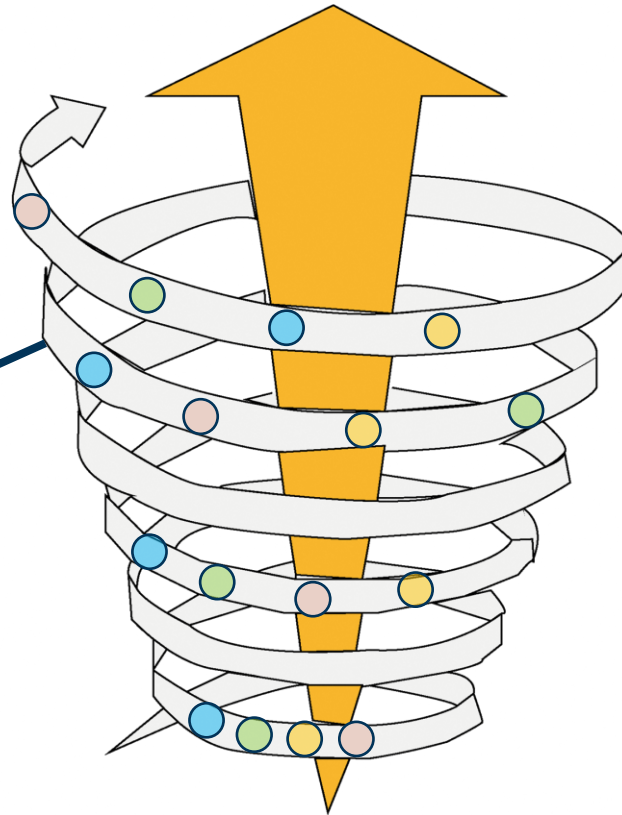
持続可能な宇川地区を実現するプロセス

宇川地区

持続可能な地域

地域全体で、
シビックプライドが
高い人がだんだん
多くなっている
ことを示す渦

地域全体として、
地域への誇りが
高まる



人の
空洞化

土地の
空洞化

むらの
空洞化

誇りの
空洞化

➡ シビックプライド醸成による
活動人口の増加に伴い、
徐々に4つの空洞化が
解決されていく

活動人口が増加し、4つの空洞化は徐々に解決され、
持続可能な宇川へ

地域教育の概要

▷ 「自然」「農」の分野から地域教育を展開

【総合学習】

児童が「宇川の自然と食」に興味を示した

【丹後町中学生以上アンケート（宇川版）】

「豊かな自然」が丹後町のいいところ
という回答が多かった

【移住者へのヒアリング】

「宇川の豊かな自然資源」に
魅力を感じて移住した人が多い

【今里ゼミ】

今里田で
米づくり体験
を実施している



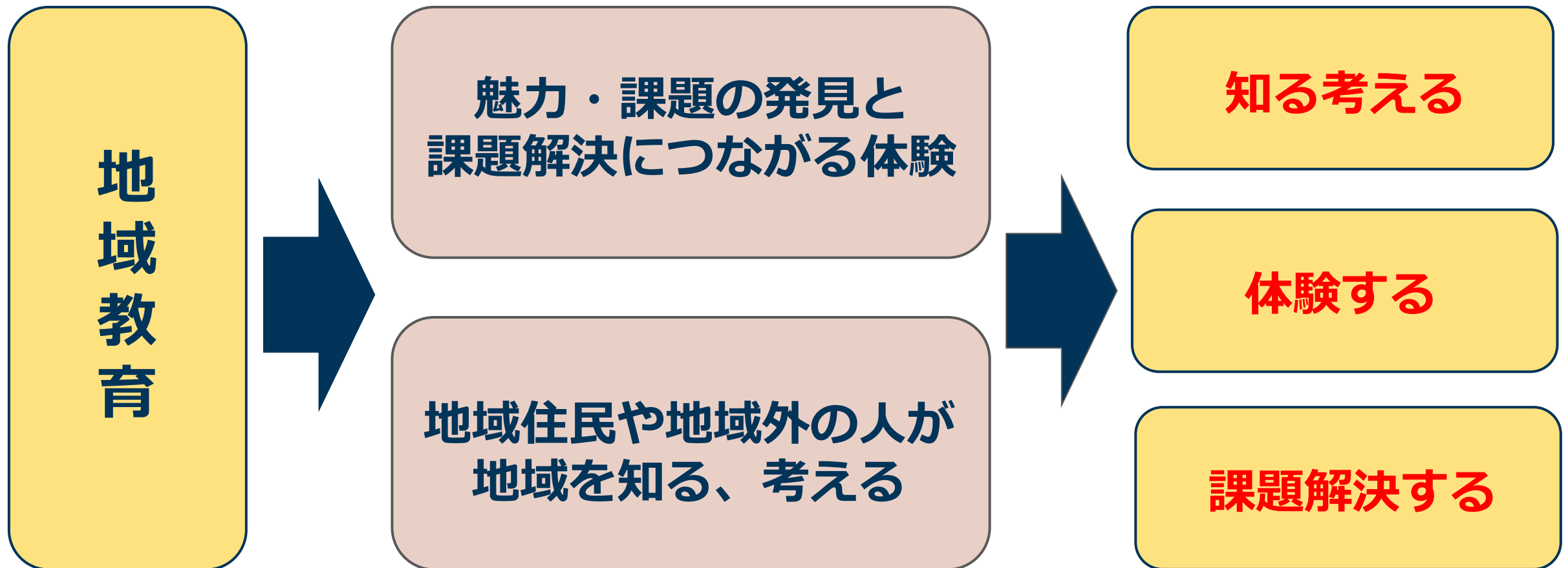
（今里ゼミ撮影）

住民の関心が最も高い「自然」「農」の分野から地域教育を展開する
後には住民の主体的な活動により、多分野の地域教育が展開される

地域教育の概要

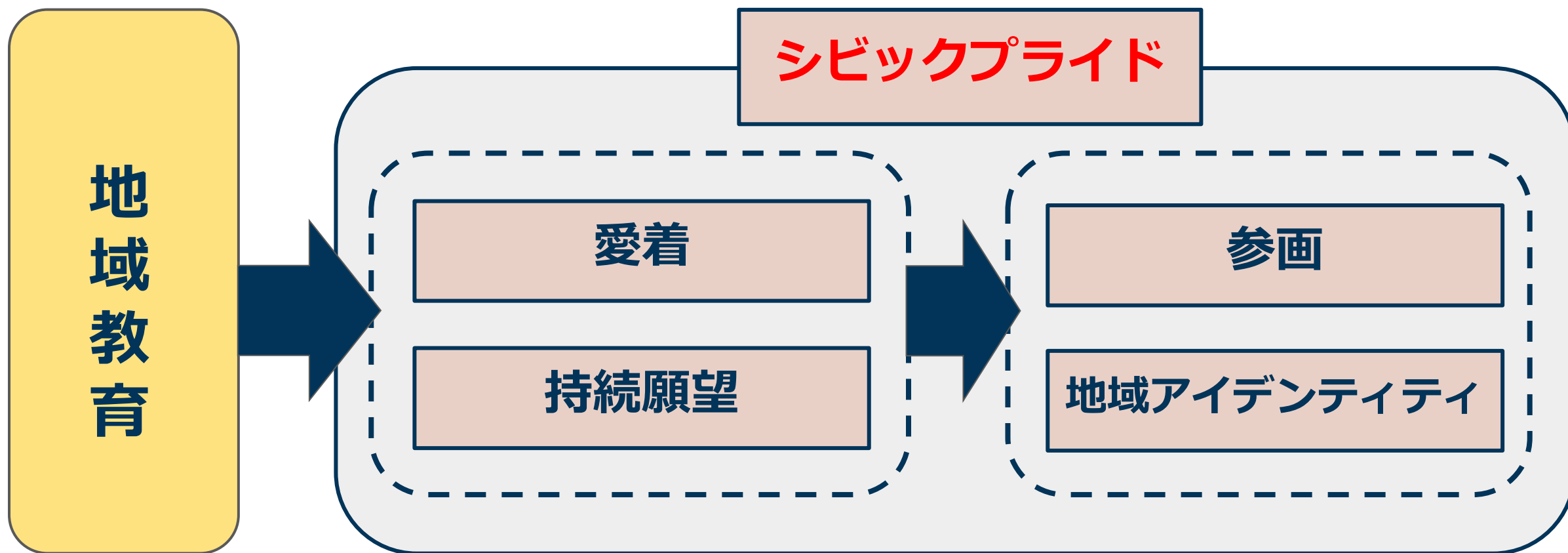
▷ 地域教育には3要素

「知る考える」「体験する」「課題解決する」を含む



地域教育の概要

▷ 「愛着」「持続願望」に働きかけてシビックプライドを醸成させる



政策提案

政策提案の流れ

第一段階

〈目的〉 地域活動に参加する地域住民の増加

〈内容〉 14集落の魅力発見イベント・今里田での農作業体験

第二段階

〈目的〉 地域教育の広まりと都市住民との協働

〈内容〉 袖志の棚田から始めるアグリツーリズム



〈地域の展望〉

4つの空洞化の解決、持続可能な地域に向けた新たな活動の展開

宇川住民のシビックプライド醸成の測定

▷ 「居住意向調査」 「住民推奨度調査」 による測定

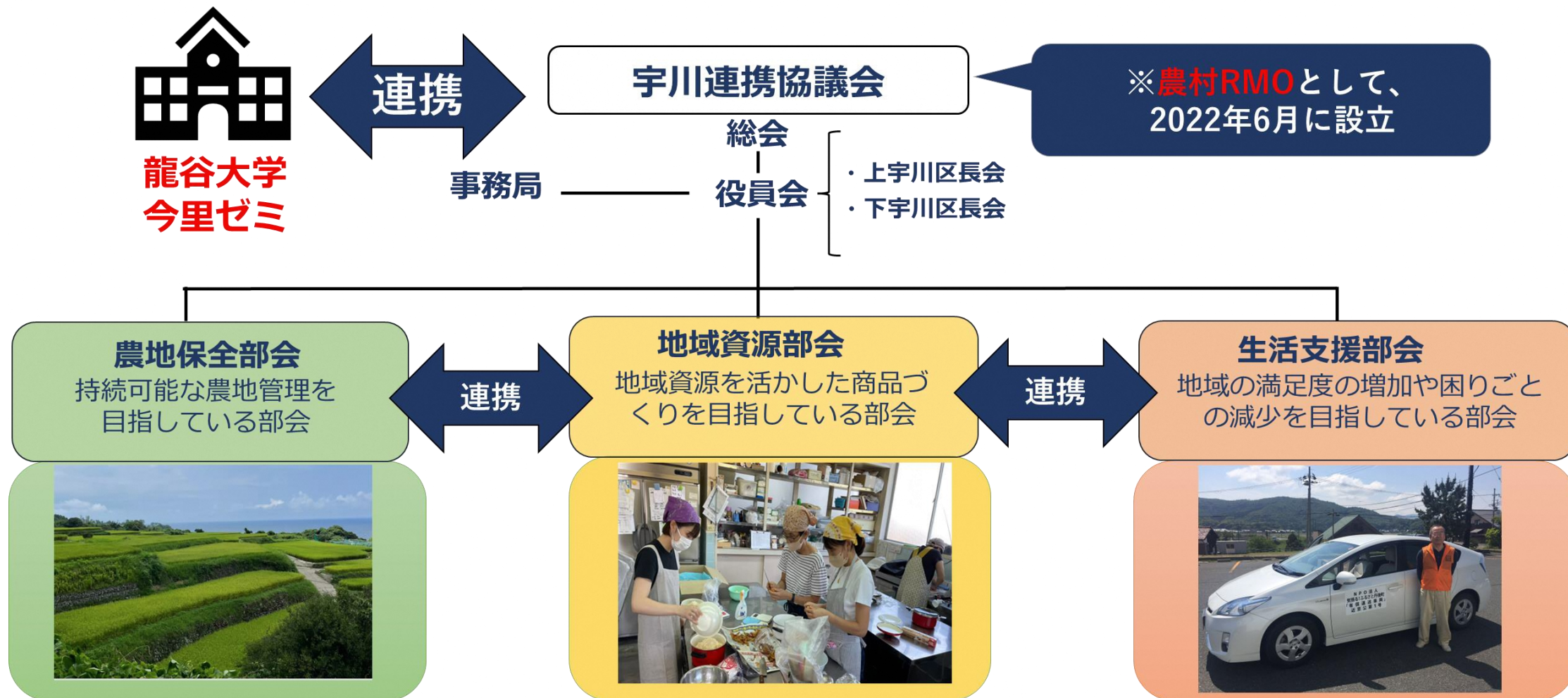
- ① 居住意向調査：現在住んでいる市民の愛着と誇りを調査する方法
- ② 住民推奨度調査：回答の得点化により、地域の推奨度合を調査する方法

 ①・②を用いて、今里ゼミが宇川住民に対して調査する

シビックプライドの因子	質問項目
愛着	「宇川地区は好きですか」 「宇川地区に住み続けたいですか」
持続願望	「宇川地区は大切だと思いますか」
参画	「次のイベントに参加してみたいですか」 「宇川連携協議会の活動に参加してみたいですか」
地域アイデンティティ	「宇川地区の一員としての自覚は持っていますか」 「宇川地区と自分の結びつきを感じますか」

政策全体の連携機関

▷ 「宇川連携協議会」と連携した地域教育



第1段階 ～宇川住民の地域活動参加へのきっかけ～

魅力発見イベント

魅力発表会への
参加を促す

魅力大発表会

他の地域活動への
参加を促す

今里田での
米づくり体験

地域に関心を持った活動人口の増加を促す

第1段階の連携機関

▷ 「わくわく教室」と連携した地域教育



(今里ゼミ撮影)

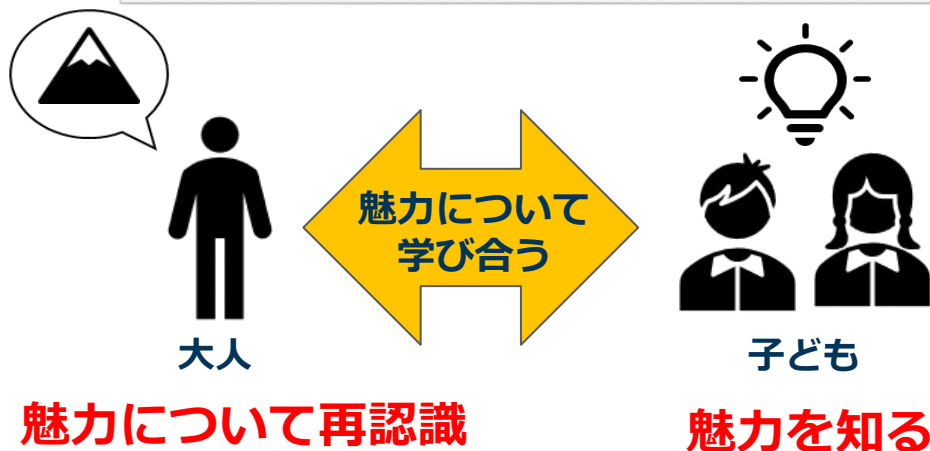
- 普段から今里ゼミが「わくわく教室」と連携して活動しているため、**政策を実現しやすい**
- 今里ゼミが企画するわくわく教室には宇川の**多くの子どもたちが参加する**

➡ 総合学習の気づきから、子どもの学びのために**より多くの大人が参加**することが期待できる

政策の実現可能性が高い「わくわく教室」との連携から始める

第1段階 ～宇川住民の地域活動参加へのきっかけ～

14集落魅力発見イベント



事業目的	- 子どもと大人が互いに宇川の魅力について学び合う - このイベントを地域活動に参加するきっかけとする
提案理由	- 宇川各区には独自の魅力があるにも関わらず、自分の住んでいる集落のことしか知らない子どもが多いから - 宇川は、集落ごとのつながりが強いという特徴があり、集落での活動には大人が参加しやすいため
実施主体	今里ゼミ、わくわく教室
協力機関	各区長さん、宇川連携協議会
目標	2023年4月から月1回開催。1回目では子ども16人、大人30人が参加することを目標とし、2回目では子ども20人、大人50人が参加することを目標とする。
実施内容	区長に呼びかけ、各区の魅力を子どもに伝えるために大人が準備する。 集会所 など、各区の住民が集まりやすい場所を活用して、 子どもに魅力を紹介する。

第1段階 ～宇川住民の地域活動参加へのきっかけ～

魅力大発表会

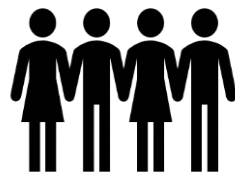


魅力について再認識



子ども

魅力を
発表する



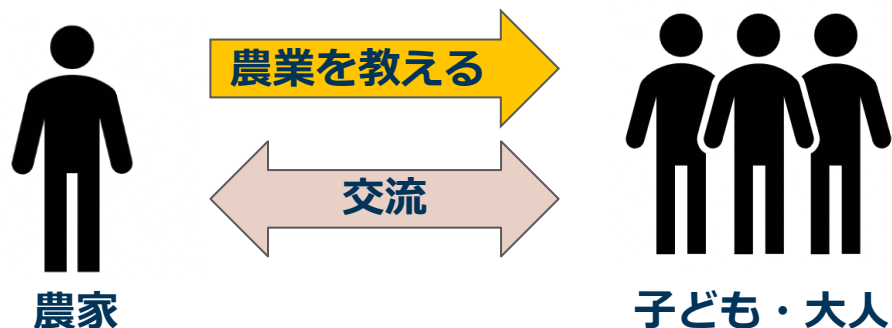
大人

事業目的	・ 魅力を発見した子どもが地域に対する関わり方を考える ・ 大人が地域活動へ参加するきっかけをつくる
提案理由	総合学習において ・ まとめて、発表することの重要性に気づいたため ・ 子どもの関わる場には、地域住民が積極的に協力してくれることに気づいたため ・ 子ども、大人双方のシビックプライドの醸成を図るため
実施主体	今里ゼミ、わくわく教室
協力者・機関	各区長さん、宇川連携協議会、連合区長会
目標	2023年4月から年に1回開催。1回目は子どもと大人合わせて30人を目標とし、2回目は50人参加することを目標とする。
実施内容	各区長と連携し、大人に呼びかけて参加を促す。子どもたちは「14集落魅力発見イベント」で学んだ「 区の魅力 」に加えて、 自分の考えもまとめて発表する。

宇川地区の地域活動に関心を持つ人が増える

第1段階 ～宇川住民の地域活動参加へのきっかけ～

今里田での米づくり体験



事業目的	・課題解決に向けた活動への参加のきっかけをつかむ ・地域に関心を持った活動人口の増加を促す ・農業に対する理解を深め、休耕田対策に取り組む担い手を創出する
提案理由	・現在行っている今里田での米づくり体験を活かせるため ・「14集落魅力発見イベント」「魅力大発表会」で地域に関心を持った人の活動の場をつくるため
実施主体	今里ゼミ、わくわく教室
協力者・機関	農家のT氏、S氏、地域連携協議会、宇川加工所
目標	2023年4月から年に4回開催。1回目は子ども10人、大人10人が参加し、2回目は子ども20人、大人20人が参加することを目標とする。
実施内容	宇川地区ならではの米づくりの魅力や苦勞を学ぶ米づくり体験イベント（水路掃除、苗床づくり、田植え、稲刈り、脱穀など）

宇川地区の魅力・課題の理解につながる

第2段階 ～宇川全体で実施する地域教育～

袖志の棚田から始めるアグリツーリズム



魅力：「日本の棚田百選」に選定

課題：高齢化、担い手不足による休耕田の増加
袖志棚田保存会の活動休止

事業目的	・都市農村交流型教育のきっかけづくり ・袖志の棚田の休耕田を解消する
提案理由	・第1段階で課題解決に興味を持った住民に活動の場を提供するため ・袖志の棚田の休耕田を解消したいため ・地域住民が地域外の人に教えることで、双方のシビックプライドの醸成を図るため ・関係人口の増加を図るため
実施主体	今里ゼミ、宇川連携協議会、袖志区
協力者	袖志区民、袖志棚田保存会のOB
目標	休耕田の再生を目標に、まず地域住民30人、関係人口20人で棚田一枚を復活させる。その後、宇川連携協議会の協力を得て都市住民を呼び込み、活動する田んぼの枚数や関係人口を徐々に増加させる。
実施内容	地域住民と都市住民による、袖志の棚田での米づくり体験

都市農村交流による地域教育の発展

袖志の棚田での活動（体験・交流）

活動範囲の拡大

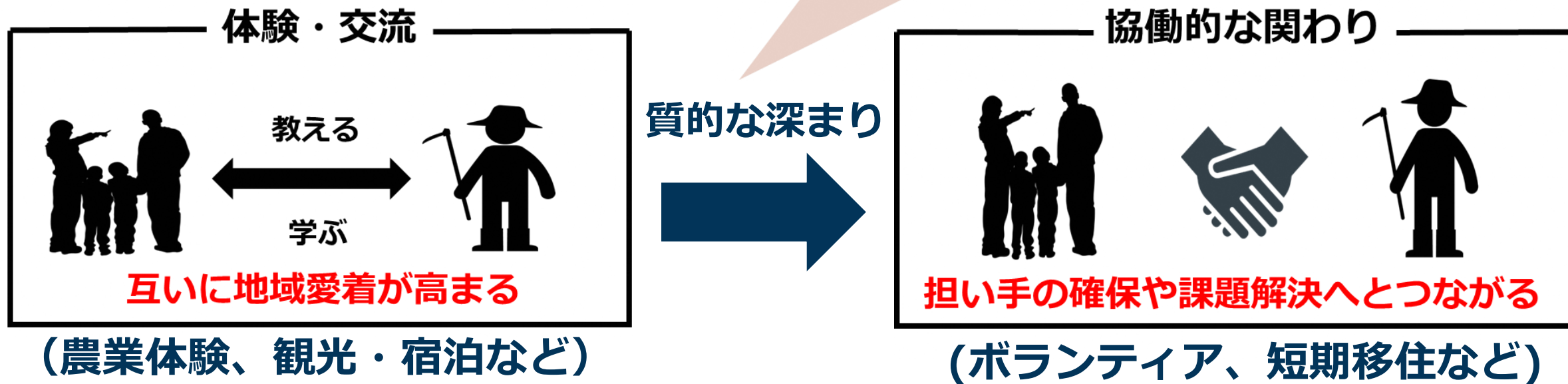
宇川全体への
地域教育の広まり

気持ちの高まり

【地域住民】
地域の魅力再認識

【都市住民】
当事者意識を持つ

第2段階による効果



都市住民が地域活動に参加することによる担い手の確保
地域住民と都市住民が協働することによる地域課題の解決

地域教育による効果

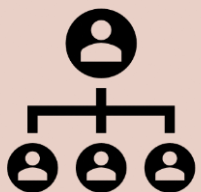
- 地域住民と地域外の人との**シビックプライドの醸成**
＝地域をより良い場所にしたいという気持ちの高まり
- 宇川地区に対する**自分自身の関わり方**を考える
- 宇川住民の**新たな活動のきっかけ**

シビックプライド醸成による活動人口の増加
地域の課題解決に向けた活動の促進

展望 ～宇川地区の発展～

新たな活動の展開

新たな
組織の設立



【農業】
オーナー制度
の開始



宇川の
食材を使用した
商品開発



農泊



宇川住民が主体的に活動が始める

| おわりに

地域教育を手段として、宇川住民や地域外の人々のシビックプライドを醸成し、主体的に地域課題を解決する活動が行われる。これらの活動が拡大していくことで、地域が活性化していき、**持続可能な地域の実現**が可能になる。

私たちの政策を実際に来年から行うことにより、持続可能な宇川地区の実現に向けた第一歩を踏み出す。

多くの農山村地域で、「地域に対する住民の誇り」が醸成される地域教育が展開され、**持続可能な農山村地域が増えること**を願う。

参考文献

- ・ 新しい農村政策の在り方に関する検討会・長期的な土地利用の在り方に関する検討会（2021）『地方への人の流れを加速させ持続低密度社会を実現するための新しい農村政策の構築：令和 2 年食料・農業・農村基本計画の具体化に向けて』、農林水産省HP
- ・ 伊藤香織（2017）「都市環境はいかにシビックプライドを高めるか：今治市を事例とした実証分析」、『都市計画論文集』、52巻3号、pp.1268-1275.
- ・ 伊藤香織（2019）「シビックプライドを醸成するまちと市民の接点」、『都市計画論文集』、2巻3号、pp.89-100.
- ・ 井形康太郎、田中尚人（2019）「地域学習における児童のシビックプライド形成に関する研究」『土木学会論文集 D3（土木計画学）』、75巻5号、pp. I_181-I_189.
- ・ 岩崎正弥、高野孝子（2010）『場の教育：「土地に根ざす学び」の水脈』、農村漁村文化協会
- ・ 大塚清恵（2005）「グリーン・ツーリズムの教育的価値：「農」がニート青年を甦らせる」、『鹿児島大学教育学部研究紀要：人文・社会科学編=Bulletin of the Faculty of Education, Kagoshima University. Cultural and social science』、57 巻、pp.85-102.
- ・ 小田切徳美（2009）農山村再生：「限界集落」問題を越えて』、岩波ブックレット 小田切徳美（2014）『農山村は消滅しない』、岩波新書
- ・ 鈴木春奈、藤井聡（2008）「地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究」、『土木計画学研究論文集』、25巻、pp.357-362.
- ・ 総務省地域力創造グループ過疎対策室（2020）『過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査報告書』、総務省HP
- ・ 袖志棚田保存会事務局（2012）「棚田・里山からのたより大学生は風、地元住民は土：袖志の棚田再生プロジェクト」、『NPO法人棚田ネットワーク会報誌』、第83号、pp.6-7.
- ・ 高野孝子（2013）「地域に根ざした教育の概観と考察-環境教育と野外教育の接合領域として」、『環境教育』、23巻2号 pp. 2_27-37.
- ・ 田中尚人、堀尾和美（2016）「小学校地域学習におけるシビックプライド涵養に関する実践的研究」、『Policy and Practice』、2巻1号、pp.107-113.
- ・ 田中尚人（2021）「上天草市におけるシビックプライドを基盤とした地域課題解決の実践」、『熊本大学政策研究』、11巻、pp.5-14.
- ・ 丹後町区長連絡協議会・丹後町まちづくり準備会（2017）『丹後町中学生以上全員まちづくりアンケート調査：結果報告：宇川版』、京都府 HP
- ・ 特定非営利活動法人100 万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター（2021）『2021年度年次報告書』、認定 NPO法人ふるさと回帰支援センターHP
- ・ 独立行政法人労働政策研究・研修機構（2016）「UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化：若年期の地域移動に関する調査結果」、独立行政法人労働政策研究・研修機構 HP

- ・ 農林水産省（2011）『日本の棚田百選「海に見える丹後町袖志の棚田」を再生』、農林水産省 HP
- ・ 引地博之、青木俊明（2005）「地域に対する愛着形成の心理過程の検討」、『景観・デザイン研究講演集』、1 巻、pp.232-235.
- ・ 藤山浩（2015）『田園回帰 1 %戦略：地元にと仕事を取り戻す』、一般社団法人農村漁村文化協会
- ・ Y.S（2021/11/14）コミュニティスクールや社会教育に関心がある方へ届けたいお話。そして11月23日に大人.Retrieved from
《https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid031kJv33QAse48BNREyhKJecAuTCtshoT3XwQuXzCghaKGRdjXFcNRisdShqCsFHTsl&id=100001963284390》
- ・ 「宇川（地名）」『フリー百科事典：ウィキペディア日本語版』、
[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%87%E5%B7%9D_\(%E5%9C%B0%E5%90%8D\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%87%E5%B7%9D_(%E5%9C%B0%E5%90%8D))、（最終閲覧日：2022/12/10、12:00（日本時間）現在の最新版を取得）
- ・ 京丹後市教育委員会事務局学校教育課（2022）「園児・児童・生徒数」、京丹後市 HP、
<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/kyoikuiinkai/gakkokyoiku/1/3/3318.html>、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 京丹後市市民環境部市民課（2020）「京丹後市の人口・世帯数」、京丹後市 HP、
https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/shiminkankyo/shimin/2_1/1683.html、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 京丹後市市民公室地域コミュニティ推進課（2016）「ふるさとわがまちわが地域：丹後町」、京丹後市HP、
<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/mayoroffice/commu/27/2/1777.html>、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 総務省統計局「令和2年国勢調査」、総務省統計局 HP、<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 未来をつくるSDGsマガジン—ソトコト、sotokoto online（ソトコトオンライン）「中学生がつくった会社『氷川のぎろっちょ』が挑戦する、「新・ムーンライト伝説」プロジェクト!」、未来をつくるSDGsマガジン—ソトコトHP、<https://sotokoto-online.jp/local/922>、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 内閣府「地域運営組織の形態」内閣府 HP、https://www.cao.go.jp/regional_management/rmoi/keitai/、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 農林水産省 農村振興局農村政策部地域振興課「農村型地域運営組織（農村 RMO）の推進 ～地域で支え合うむらづくり～」、農林水産省 HP、
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/index.html>、（最終閲覧日：2022/12/10）
- ・ 農林水産省 大臣官房統計部経営・構造統計課センサス統計室（2010；2015；2020）「農業センサス」、農林水産省 HP、
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>、（最終閲覧日：2022/12/10）



今里ゼミと地域の方の力を合わせて
持続可能な宇川をつくっていきます

ご清聴ありがとうございました